

温熱療法について

温熱療法とは

熱カロリー刺激で有益な生体反応を利用、体力の向上、抵抗力の調整に役立てる医療行為である。

※ 但し本製品は医療器具ではありません。一般的に温熱療法について述べております。

理論 温熱療法の効果の根拠として

- ① 経路：気の流れ（経路）には「ツボ」があり、そのツボから気が出入りすると考えられる。しかしそのツボを中心に気の流れが滞り病気になる。熱刺激によって気の流れをスムーズにするのが治療目的である。
- ② リンパ系：脈管系には動脈・性脈リンパ管が存在し、体の中を流れる液体成分は全てこれらの脈管系を流れる。動脈を上水道、性脈を下水道に見立てればリンパ管は下水道の手前の「排水溝」に例えることができる。この排水溝を刺激でキレイにするのが目的である。
- ③ 血管系：熱刺激によって動脈も性脈も拡張する。拡張すれば血量も増加、循環が良くなる。循環の悪い状態をオケツ（お血）状態と呼び、血管拡張作用でこのオケツが改善される。
- ④ 炎症理論：炎症は生体内、生体外からのあらゆる刺激に対する生体反応である。その反応の主体は免疫システムの発動である。温熱刺激が免疫システムのスイッチを入れると考える。
- ⑤ 癌の治療に：がん細胞は血量が少なく熱に弱いことを利用（41℃以上、42.5℃以上で特に効果的：国立癌センター）癌対策に再発防止にも効果が増す。

温熱療法は単独で行うよりも放射線や抗がん剤の効果を強める目的として、併用して行うことでより効果が得られます。

温熱療法の分類

温熱療法としての起源の種類

- ① 燃焼
- ② 遠赤外線・近赤外線
- ③ 可視光線
- ④ レーザー光線（単一波長光）
- ⑤ マイクロ波
- ⑥ 蒸気